



第125期 中間報告書

2016年1月1日 ▶ 2016年6月30日

CONTENTS

株主の皆様へ…1

領域別及び製商品別の概況…3

研究開発の状況…5

トピックス①…6

トピックス②…7

財務諸表の概要…8

株式の状況…9

会社の概要…10

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第125期(2016年12月期)第2四半期累計期間の経営成績につきましてご報告いたします。ご高覧頂きますようお願いいたします。

当社は今後とも「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」という企業ミッションのもと、持続的な事業成長と中長期的な企業価値の向上の実現に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2016年9月

代表取締役社長 **高木正一郎**

経営成績について

当第2四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高は、2016年4月に実施された薬価改定において、通常の薬価引き下げのほか、「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」及び「リオナ錠(高リン血症治療剤)」が市場拡大再算定の対象品目となったこと等により、

290億円と前年同期に比べ4億円(1.4%)減少しました。

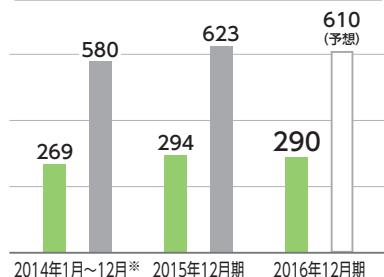
主要な製品・商品の販売状況につきましては、「リオナ錠」が26億円と前年同期に比べ4億円(18.6%)、「スタリビルド配合錠(抗HIV薬)」が17億円と前年同期に比べ3億円(22.7%)、「シダトレン スギ花粉舌下液(減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)」が3億円と前年同期に比べ2億円

決算ハイライト ■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位: 億円)

売上高

第2四半期(累計)実績

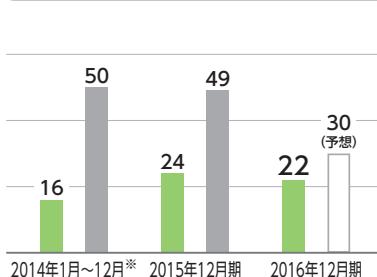
290億円 前年同期比 1.4%減



営業利益

第2四半期(累計)実績

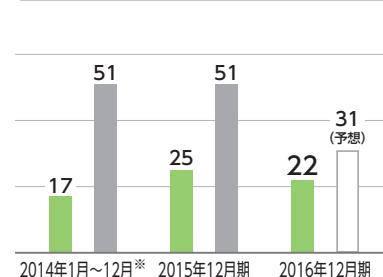
22億円 前年同期比 9.9%減



経常利益

第2四半期(累計)実績

22億円 前年同期比 9.9%減



※当社は、2014年12月期から、決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更しており、2014年12月期は9ヶ月決算となっております。そのため、当期実績との比較として同一期間である2014年1月1日から2014年6月30日までの6ヶ月間の数値を記載しております。また、2016年12月期通期予想との比較として2014年1月1日から2014年12月31日までの12ヶ月間の数値を記載しております。



(150.6%)、「ツルバダ配合錠(抗HIV薬)」が62億円と前年同期に比べ0.9億円(1.6%)それぞれ増加しましたが、「レミッチカプセル」が66億円と前年同期に比べ7億円(9.7%)、「アンテベート(外用副腎皮質ホルモン剤)」が31億円と前年同期に比べ2億円(6.0%)それぞれ減少しました。

費用面におきましては、売上原価は141億円と前年同期に比べ0.04億円(0.0%)減少し、販売費及び一般管理費はパソコン更新による一過性の費用の発生がありました。研究開発費が減少したこと等により、126億円と前年同期に比べ1億円(1.3%)減少しました。

以上の結果、営業利益は22億円と前年同期に比べ2億円(9.9%)減少し、経常利益は22億円と前年同期に比べ2億円(9.9%)減少しました。四半期純利益につきましては、14億円と前年同期に比べ1億円(9.1%)減少しました。

通期の業績予想について

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、第124期報告書でご報告した予想数値を

以下の通り修正しております。

	前回予想	修正予想	対前回予想(増減率)
売上高	610億円	610億円	—
営業利益	33億円	30億円	△3億円(△9.1%)
経常利益	34億円	31億円	△3億円(△8.8%)
当期純利益	23億円	20億円	△3億円(△13.0%)

売上高は、概ね計画の通り進捗しており、前回予想数値からの変更はありません。

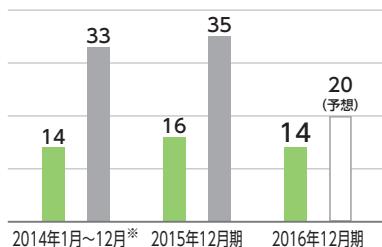
利益面につきましては、販売費及び一般管理費において、一定の経費節減効果を見込んでおりますが、研究開発費については当初計画を上回る見込みとなったことから、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前のご報告した予想を下回る見通しとなりました。

なお、当期の配当金につきましては、1株当たり年間48円を予定しており、前のご報告した予想からの変更はありません。

四半期(当期)純利益

第2四半期(累計)実績

14億円 前年同期比 9.1%減



配当について

配当方針

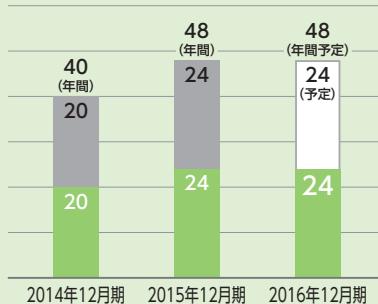
当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。

上記基本方針の下、経営体質の強化や将来の事業展開等を目的とした中長期的な視野に立った投資等に備えることも勘案したうえで、株主の皆様へ安定的還元を行ってまいります。

● 中間配当支払開始日 9月2日

1株当たり配当金

■ 中間配当 ■ 期末配当 (単位:円)



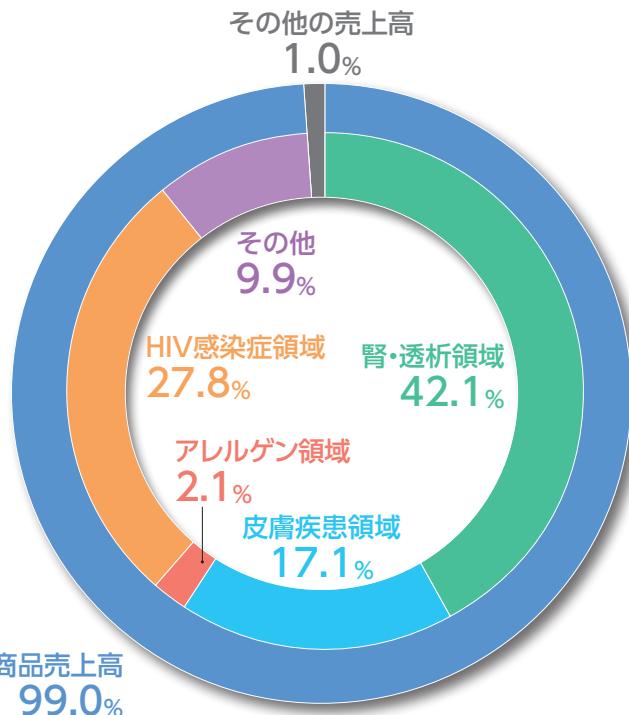
領域別及び製商品別の概況

領域別売上高

(単位：百万円)

	2015年12月期 第2四半期(累計)	2016年12月期 第2四半期(累計)
売上高	29,434	29,013
製商品売上高	29,239	28,735
腎・透析領域	12,959	12,231
皮膚疾患領域	5,364	4,951
アレルギー領域	353	616
HIV感染症領域	7,678	8,074
その他	2,883	2,861
その他の売上高	194	277

製商品売上高の「その他」に含めておりました手数料収入等は、「その他の売上高」の区分を設けて表示しております。また、「不動産賃貸収入」についても、「その他の売上高」に含めて表示しております。



主要製品・商品のご紹介

レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



従来の止痒薬では効果が不十分であった血液透析患者の痒みや、慢性肝疾患患者の痒みを改善する薬剤です。

リオナ錠

高リン血症治療剤



体内へのリンの吸収を抑制することにより、慢性腎臓病患者(血液・腹膜透析患者、保存期腎不全患者)の高リン血症を改善する薬剤です。

アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎等の皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。



製商品別売上高

(単位：百万円)

品 名		2015年12月期 第2四半期(累計)	2016年12月期 第2四半期(累計)
レミッチカプセル	経口そう痒症改善剤 腎・透析領域	7,419	6,696
ツルバダ配合錠	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV感染症領域	6,131	6,227
アンテベート*	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚疾患領域	3,369	3,166
リオナ錠	高リン血症治療剤 腎・透析領域	2,221	2,635
スタリビルド配合錠	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV感染症領域	1,411	1,731
注射用フサン*	蛋白分解酵素阻害剤 腎・透析領域	1,438	1,200
ビオスリー	活性生菌製剤(整腸剤) その他	1,078	1,162
ケイキサレート*	高カリウム血症改善剤 腎・透析領域	1,087	1,072
ロコイド*	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚疾患領域	723	710
ユリノーム錠*	尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) 腎・透析領域	791	626
ゼフナート	抗真菌薬 皮膚疾患領域	615	583
マグセント	切迫早産における子宮収縮抑制剤・子癇の発症抑制・治療剤 その他	502	525
シダトレン スギ花粉舌下液*	スギ花粉症の減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬 アレルゲン領域	152	382
その他製商品		2,295	2,014

* 自社品

シダトレン スギ花粉舌下液

スギ花粉症の減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬



スギ花粉症に対する国内初の舌下投与による減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬です。「アレルゲン」を少量から投与することで、体をアレルゲンに慣らし、アレルギー症状を和らげる治療(減感作療法)に用いる薬剤です。

ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



ヒト免疫不全ウイルス(HIV)逆転写酵素を阻害し、ウイルスの増殖を阻害する薬剤です。

スタリビルド配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



ヒト免疫不全ウイルス(HIV)逆転写酵素及びインテグラーゼを阻害し、ウイルスの増殖を阻害する薬剤です。1錠に4成分を含有した配合錠で、抗HIV療法を1剤で行うことができる薬剤としては国内で最初に認可されました。

研究開発の状況

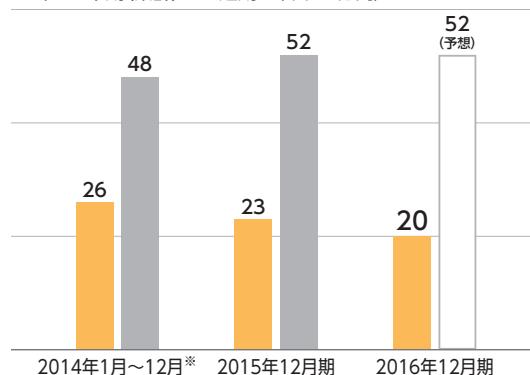
主要な研究開発の状況につきましては、下表の通りとなっております。

前回(第124期報告書)ご報告以降の変更点としましては、高リン血症治療剤「リオナ錠」(開発番号:JTT-751)につきまして、日本たばこ産業株式会社(以下「JT」)と共同で、鉄欠乏性貧血を新適応症とする国内第Ⅱ相臨床試験を開始しております。また、室内塵ダニアレルギー疾患(アレルギー性喘息)を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「ミティキュア ダニ舌下錠」(開発番号:TO-203)につきましては、国内第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験を終了し、今後の開発方針について検討中です。

なお、当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は20億円となりました。

研究開発費の推移

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:億円)



※当社は、2014年12月期から、決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更しており、2014年12月期は9ヶ月決算となっております。そのため、当期実績との比較として同一期間である2014年1月1日から2014年6月30日までの6ヶ月間の数値を記載しております。また、2016年12月期通期予想との比較として2014年1月1日から2014年12月31日までの12ヶ月間の数値を記載しております。

主な研究開発品 (2016年7月28日現在)

開発番号	予定適応症等	剤形等	開発段階(国内)					備考
			PhaseⅠ	PhaseⅡ	PhaseⅢ	申請	承認	
腎・透析領域								
JTT-751 リオナ錠	鉄欠乏性貧血	経口剤		PhaseⅡ				<ul style="list-style-type: none"> ●ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ●JTとの共同開発 ●JTが2014年1月17日に製造販売承認取得 ●高リン血症治療剤として販売中
アレルギー領域								
TO-203 ミティキュア ダニ舌下錠	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)	舌下錠		PhaseⅡ/Ⅲ終了※				<ul style="list-style-type: none"> ●ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発 ※今後の開発方針について検討中
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)	舌下錠			PhaseⅢ			<ul style="list-style-type: none"> ●ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発
TO-206	スギ花粉症 (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)	舌下錠				申請		<ul style="list-style-type: none"> ●自社開発 ●2015年12月25日に製造販売承認申請

抗HIV薬「ゲンボイヤ®配合錠」新発売について

当社は、JTが製造販売承認を取得した抗HIV薬「ゲンボイヤ®配合錠」(エルビテグラビル150mg/コビスタット150mg/エムトリシタビン200mg/テノホビル アラフェナミド10mg配合錠)について、2016年7月8日に発売いたしました。

本配合錠は、当社が2013年より国内で販売している抗HIV薬「スタリビルド®配合錠」の4つの有効成分のうち、テノホビル ジンプロキシシルフマル酸塩 (TDF) をテノホビル アラフェナミド (TAF) に置き換えた配合錠で、1日1回1錠の服薬で治療を行う抗HIV薬です。

臨床試験において、TAFはTDFの10分の1以下の投与量でTDFと同程度の抗ウイルス効果を示したほか、TDFの安全性上の懸念である腎臓や骨への影響が軽減されることが示されております。

当社では、抗HIV薬として「スタリビルド®配合錠」「ツル

バダ®配合錠」「エムトリバ®カプセル200mg」「ビリアード®錠300mg」「ビラセプト®錠250mg」を販売しております。新たに「ゲンボイヤ®配合錠」を販売することにより、HIV感染症領域における医療に一層貢献してまいります。



Menlo Therapeutics社とのNK-1受容体アンタゴニストに関するライセンス契約締結について

当社及びJTは、Menlo Therapeutics Inc. (以下「Menlo Therapeutics社」と、同社が開発を進めてきたニューロキニン1 (NK-1) 受容体アンタゴニスト「VPD-737 (国際一般名: serlopitant)」について、日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を2016年8月10日に締結いたしました。

本剤は、NK-1受容体を介した痒みの誘発を抑制するこ

とにより、そう痒症を改善することが期待される新規経口剤です。Menlo Therapeutics社が米国で実施した第Ⅱ相臨床試験において、本剤の抗そう痒効果が確認されております。

今回の契約により、今後日本においては当社がJTと共同で本剤の開発を行い、販売については当社が行うこととなります。



「コーポレートガバナンスポリシー」制定について

当社は、2016年5月26日開催の取締役会において、「コーポレートガバナンスポリシー」の制定を決議し、公表いたしました。

当社におけるコーポレートガバナンスとは、企業ミッションである「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」ことの遂行に向け、経営環境の変化に迅速かつ適切に対処し、公正かつ透明な経営を実行するため

の仕組みのことであり、コーポレートガバナンスの充実が、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上につながるものと認識し、この考え方にに基づき、「コーポレートガバナンスポリシー」を制定いたしました。

当社は、コーポレートガバナンスを経営上の重要課題の一つと位置付け、本ポリシーに基づき、その充実を図ってまいります。

ホームページをリニューアルいたしました

この度、当社はホームページをリニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、より見やすく使いやすいWEBサイトを目指し、デザインの変更、レイアウトや構成の見直し、お問い合わせフォームの刷新などを行いました。

今後もホームページを通じて、さまざまなステークホルダーの皆さまへお役に立つ情報をご提供できるよう、内容の充実に努めてまいります。

TOPページ



企業情報



主要製商品ご紹介



<http://www.torii.co.jp/>

財務諸表の概要

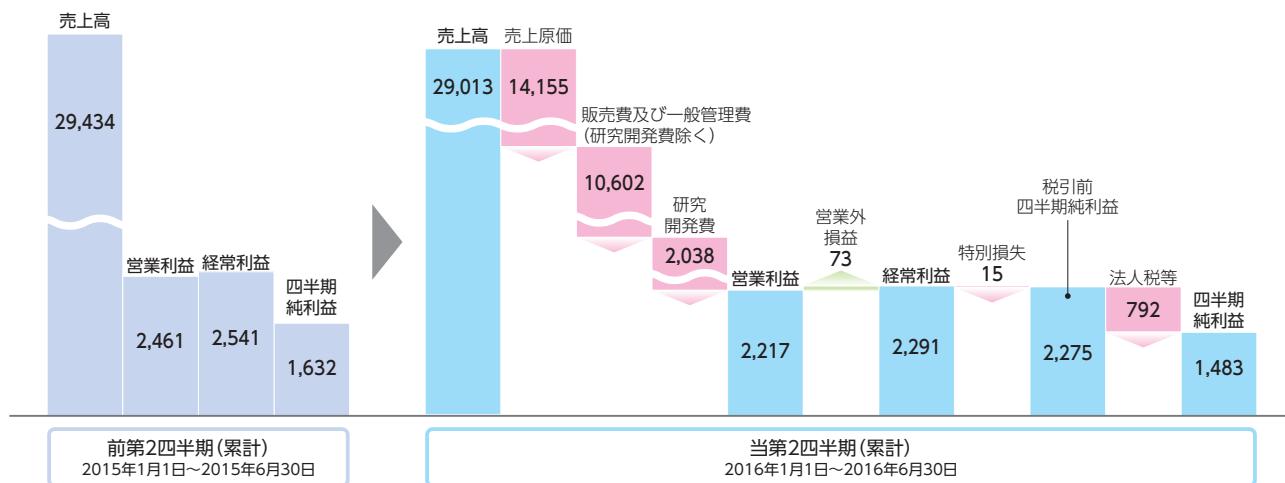
▶▶ 詳しい財務情報は当社IRサイトをご覧ください。

鳥居薬品 IR



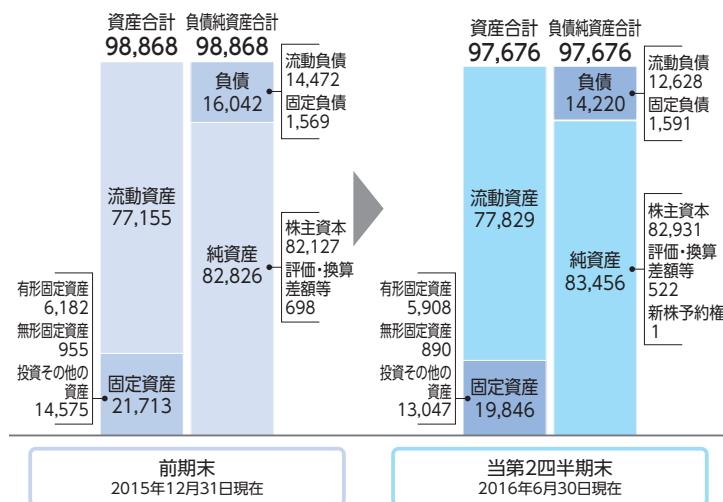
損益計算書の概要

(単位：百万円)



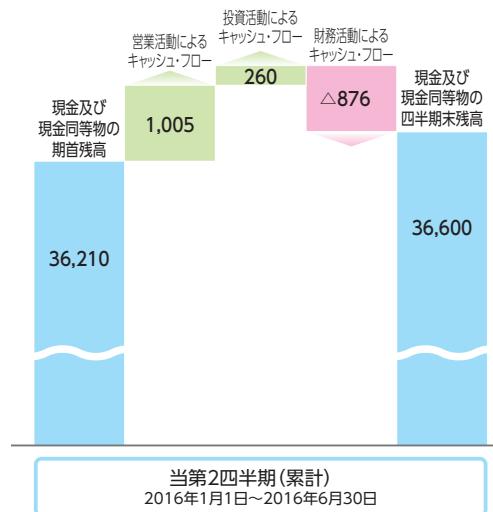
貸借対照表の概要

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



株式の状況

(2016年6月30日現在)

株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

株主数

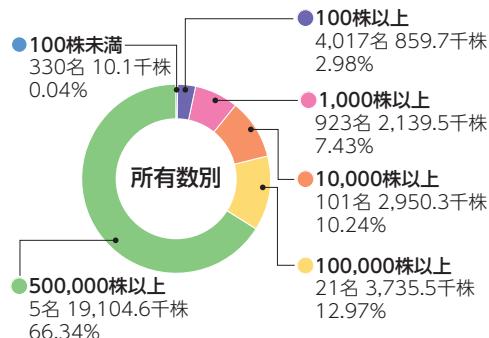
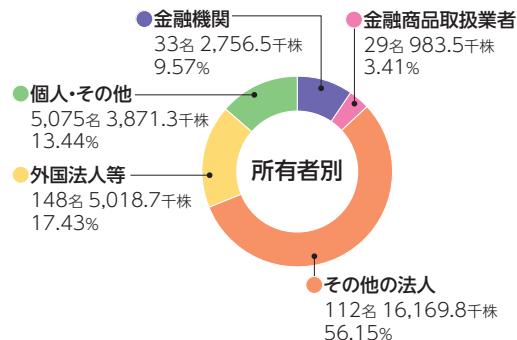
株主数 (単元未満株主を含む)	5,397名
-----------------	--------

大株主

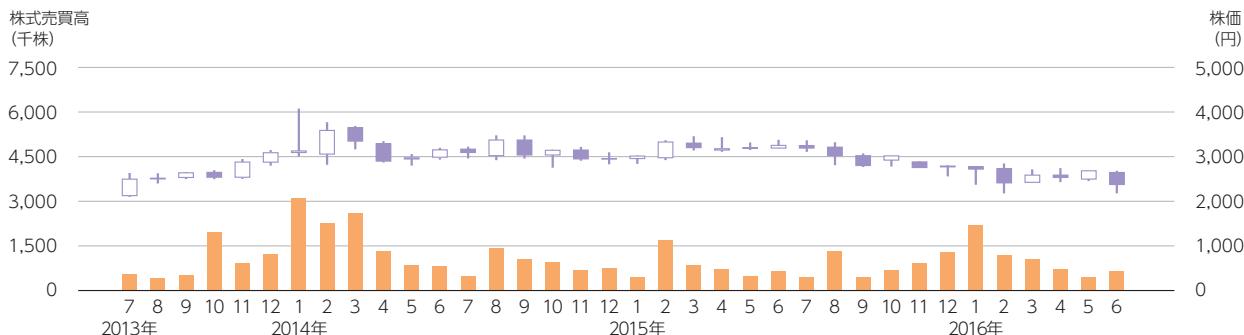
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー(ケイマン)リミテッド	1,871.9	6.49
立花証券株式会社	746.8	2.59
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223	586.3	2.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	418.9	1.45
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	288.5	1.00
鳥居薬品従業員持株会	280.1	0.97
株式会社みずほ銀行	210.0	0.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	173.4	0.60

(注)上記の他、当社が保有する自己株式数は500.8千株(持株比率1.73%)であります。

株式分布状況



株価及び株式売買高の推移 (2013年7月～2016年6月)



会社の概要

(2016年6月30日現在)

会社概要

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	1,069名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、当社から当社への出向者を含む就業人数であります。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL:03-3231-6811(代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、 南九州支店(熊本)、佐倉工場、 研究所(佐倉工場内)

役員

取締役・監査役

取締役会長	松尾 紀彦	取締役	掛江 敦之
代表取締役社長	高木正一郎	取締役	鳥養 雅夫
常務取締役	田村 明彦	取締役	會澤 恒
常務取締役	梅田 高弘	常勤監査役	古谷 幸友
取締役	假屋ゆう子	常勤監査役	ハツ本泰之
取締役	角南 正記	監査役	福岡 敏夫
		監査役	出雲 栄一

執行役員

執行役員	林 秀岳	執行役員	野田 優
執行役員	藤原 勝伸	執行役員	森崎 信也
執行役員	太田 尚	執行役員	斉藤 哲也

(注)1. 取締役 鳥養 雅夫及び會澤 恒は、社外取締役であります。

(注)2. 監査役 福岡 敏夫及び出雲 栄一は、社外監査役であります。

(注)3. 取締役 鳥養 雅夫及び會澤 恒、監査役 福岡 敏夫及び出雲 栄一は、東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更、单元未満株式の 買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆さま」では、決算短信等のIR情報をご覧ください。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

TOPページ



鳥居薬品



IRページ



将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見通しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げる事ができます。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- 研究開発の遅延又は中止
- 薬価の決定、改定
- 副作用の発現
- 製商品の供給停止、回収
- 訴訟の提起



鳥居薬品株式会社

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル
TEL 03-3231-6811 (代表)

